

G
O
L
D

B
E
R
G

F
A
Z
Z
I
L
L

S
A
Y

グールド以来の衝撃!

鬼才から世界をリードするピアニストに飛翔した



ファジル・サイ

ゴルトベルク

[演奏曲] バッハ:ゴルトベルク変奏曲 BWV988《全曲》
[出演] ファジル・サイ (ピアノ)

2023 **9/12 (火) 7:00 pm** 開演 (6:15pm 開場)

※公演時間: 約70分 (途中休憩はございません)
※開演しますと途中入場できませんのでご注意ください。

住友生命いずみホール [チケット料金] 全席指定 7,000円 (税込) 発売日 5/28 (日)

- 住友生命いずみホールチケットセンター
06-6944-1188 [10:30~17:00] (日・祝休み)
<https://www.izumihall.jp/ticket>
※住友生命いずみホールでの取扱いは5/29 (月) あさ10:30より
- チケットぴあ <https://t.pia.jp/> [Pコード: 241-204]
- ローソンチケット <https://l-tike.com/> [Lコード: 54943]
- CNプレイガイド 0570-08-9990
- e+ (イープラス) <https://eplus.jp/> (パソコン・携帯)

■ABCびあ (webで予約・購入)
ABCびあ 検索 携帯サイトはこちら▶▶▶
<http://abc-ticket.pia.jp/>
24時間・座席選択可能! 入会費・年会費無料
メルマガで優先予約をご案内!



お問い合わせ ABCチケットインフォメーション 06-6453-6000 [平日10:00~17:30] ※この番号では、チケットのご予約は承っておりません。

公演情報は、〈ABCクラシックガイド〉のホームページへ <https://www.asahi.co.jp/symphony/>

※未就学児のご入場はご遠慮ください。

主催/企画・制作: エイベックス・クラシックス・インターナショナル
共催: ABCテレビ
協賛: 住友生命いずみホール [一般財団法人 住友生命福祉文化財団]
制作協力: インタースペース





ファジル・サイ

いま、最も脂が乗ったピアニストが弾く
ピアノ音楽の最高峰《ゴルトベルク》

前島秀国 (サウンド&ヴィジュアル・ライター)

©Marco Borggreve

ファジル・サイが衝撃的な日本デビューを飾ってから四半世紀が経過したが、このほかバッハを大切にしてきた彼は、然るべき時が来るまで《ゴルトベルク変奏曲》を演奏

しようとしなかった。その曲をようやく日本公演で披露したのが今年1月。ファジルは昨今流行りのピリオド・アプローチなど一顧だにせず、さりとして恣意的な誇張もせず、力強くも靈妙この上ないタッチによって、《ゴルトベルク》という対位法のアラベスクをヴィヴィッドかつエネルギッシュに描いてみせた。もはや“トルコの鬼才”という説明を必要としない、真の意味で“巨匠”となりつつあるピアニストの姿が、そこにはあった。だからこそ、彼のCD録音と同じく、リピート省略なしの形で聴きたいと切望した観客も多いはずだ。そうした要望を受け、ついにファジルは9月のいずみホール公演で一度限りの《ゴルトベルク》完全演奏を披露する。いま、最も脂が乗ったピアニストが弾くピアノ音楽の最高峰——。控えめに言って、千載一遇のリサイタルだ。

FAZIL SAY GOLDBERG

ファジル・サイ (ピアノ・作曲) FAZIL SAY, pianist / composer

ファジル・サイのコンサートは異次元である。率直で赤裸々で刺激的な演奏、つまり人の心にまっすぐ訴えかけてくる。1986年に作曲家のアリベルト・ライマンがアンカラの音楽院を訪れた際、当時16歳だったサイの演奏を偶然耳にしたときに「絶対にこの少年の演奏を聴かなきゃだめだ！まるで悪魔のように演奏するのだ」と言った。

作曲家として、ザルツブルク音楽祭、フォンダシオン・ルイ・ヴィトン、オルフェウス室内管弦楽団、BBCなどに委嘱作品を書いているほか、交響曲5作品、オラトリオ2作品、あらゆる楽器の協奏曲、数々のピアノ・ソロ曲や室内楽曲を作曲している。

これまでに数えきれないほどの国や都市で客演しており、その軌跡は5大陸すべてを網羅する。フランスのフィガロ紙は、サイを「天才」と評した。また、室内楽にも熱心に取り組んでおり、ヴァイオリンのパトリツィア・コパチンスカヤと長年素晴らしいデュオを組んでいるほか、マキシム・ヴェンゲーロフ、ミネッティ弦楽四重奏団、モディリアーニ弦楽四重奏団、ニコラ・アルトシュテット、マリアヌ・クレバツサラと定期的に共演している。

これまでにバッハからストラヴィンスキーまで数々のレコーディングをしており、批評家たちから非常に高く評価され、エコー・クラシック賞に3度輝くなど数々の受賞歴を持つ。最新のリリースは、2022年秋にワーナー・クラシックスより発表した《バッハ：ゴルトベルク変奏曲》。